

新学習指導要領がスタートした2022年度、学校現場には資質・能力を育成するための指導と評価を積み重ねながら、より自校に合った形へと軌道修正していくことが求められる。現場が直面する課題や疑問を解決し、よりよい計画・実践につながる情報を提供する。

— 疑問や課題を解決！実践につながる！ —

新課程レポート

ベネッセ教育情報センター

テーマ

「総合的な探究の時間」を通じた キャリア・進路観の形成

セミナーレポート

ウェブセミナー「学び続ける生徒の育成に向けて、新課程における教育実践と深化」第6回
生徒のキャリア・進路観の形成につながる
「総合的な探究の時間」とは

各校で「総合的な探究の時間」を中心に探究学習が充実する一方で、「探究学習での学びが、生徒のキャリア・進路観の形成に十分につながっていない」といった課題を感じている教師は少なくない。そこで、ベネッセ教育情報センターでは、「総合的な探究の時間」の全国の現状や、キャリア・進路観の形成につながる「総合的な探究の時間」の設計の先進事例を紹介するウェブセミナーを実施した。

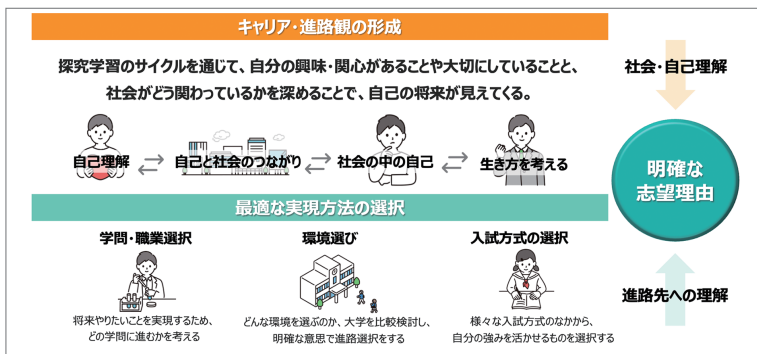
探究学習を通して、 明確な志望理由を醸成

「総合的な探究の時間」における課題として、授業の設計の仕方や、教師間の指導力の差などに加え、進路指導との連携の難しさを挙げる教師は少なくない。その背景にあるのが、学校推薦型・総合型選抜の拡大だ。学校推薦型・総合型選抜では「明確な志望理由」が問われるが、志望理由を深める場の1つとして期待されるのが、「総合的な探究の時間」だ。探究する課題を考える中で、自分の興味・関心や価値観を掘り起こし、それが社会の問題とどうかかわっ

ているのか、自分は社会でどんな役割を果たせそうか、といった問いに向き合うことを通じて、「将来やりたいこと」が明確になっていくからだ(図1)。また、課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現という探究のサイクルを何度も回し、探究学習に必要なスキルを習得することで、自身の将来を考え、志望理由を深める力、すなわち、キャリア・進路観を深める力を身につけることができる。

「総合的な探究の時間」をどのように設計すれば、生徒のキャリア・進路観を深める力を養うことにつながるのか。実践例を通して考える。

図1 明確な志望理由の創造のプロセス



※ウェブセミナーの投影資料をそのまま掲載。

「総合的な探究の時間」

——生徒の主体的な探究を目指して

栃木県・私立宇都宮文星女子高校

篠原孝文

探究のサイクルを年に2回、3年間継続して回す

栃木県・私立宇都宮文星女子高校普通科・総合ビジネス科では、大学調べ・職業調べなどを中心に、「総合的な学習の時間」を展開してきた。同授業では、高校卒業後の進路を決めることに重きを置いていたため、生徒の関心や大学での学び、職業などを、社会課題と結びつけることが十分にできていなかったという。また、生徒が自らの考えを論理的に表現する機会



栃木県・私立
宇都宮文星女子高校
篠原孝文
しのはら・たかふみ

教職歴23年。同校に赴任して23年目。学習指導部長。ICT推進部長。地理歴史・公民科。

も確保していなかったため、3年生になって志望理由書の作成に苦労する生徒も少なくなかった。そうした課題を踏まえて、同校では、「探究ナビBasic」(*1)を活用し、キャリア・進路観や論理的思考力の形成につながる「総合的な探究の時間」の設計に着手した。

同校の「総合的な探究の時間」の特徴は、1年間に2回、探究のサイクルを回すことだ(図2)。1年次の前半は、自分の関心事を探究し、課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現・振り返りの一連のサイクルを回す。1年次の後半は地元・栃木、2年次には日本、そして3年次には世界と、視野を広げながら課題やテーマを設定し、探究活動を深めていく。最初は自分の身の周りのこと

図2 「総合的な探究の時間」3年間のスケジュール

学年	時期・実施方法	対象テーマ	内容	表現方法
1年次	前半・個人	自分	自分の関心事を「探究」しよう 探究の手法を体験的に学ぶ	ポスター
	後半・集団	地域	とちぎ魅力度 アッププロジェクト① 地域の課題を知り、探究的手法によって解決策を考えよう	スライドプレゼン
2年次	前半・個人	地域(日本)	日本の課題を知り、解決策を考えよう 社会課題の視野の拡張・探究的手法の成熟	ポスター
	後半・集団	地域(日本)	とちぎ魅力度 アッププロジェクト② 地域の課題について、日本全体と比較しながら魅力度を上げよう	スライドプレゼン
3年次	前半・個人/集団	自分・日本・世界	自分が社会課題にどうかかわっていくか、考えよう/将来の展望を考えよう	レポート ポスター スライド
	後半・個人/集団	自由	卒業論文を作成しよう	レポート

※ウェブセミナーの投影資料を基に編集部にて再構成。



探究のサイクルを繰り返し回しながら、興味・関心を社会へと広げ、深めていく

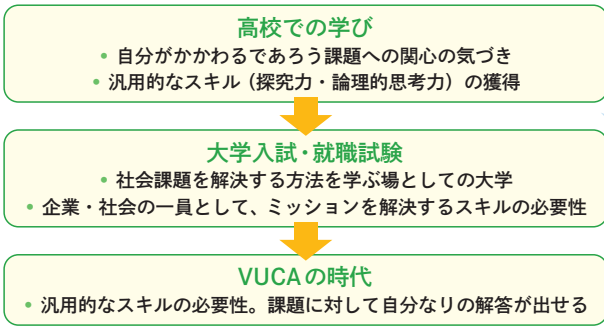
課題の設定時に生徒に留意させているのは、過去に探究のサイクルを回した時に生まれた興味や気づきを大切にして、次に探究する課題を考えてみることです。そうすることで、3年次の志望理由書の作成の場面で、「私はこのテーマに興味を持った!」と、自分の言葉で前向きに語れる生徒が増えると思います。

すくなくなった。

探究のサイクルを繰り返し回すことで、探究する課題が変わっても、前回の探究学習の経験を生徒が次の探究学習に生かしやすいくなる。また、教師も生徒の「問いの立て方」や「問題解決のプロセス」の変遷に着目することで、生徒の変化・成長を見取りやすくなる。

*1 ベネッセの教材の1つで、楽しくて分かりやすい説明ステップに沿って、生徒が探究を体験し、前向きに探究の基礎スキルを身につけることができる教材。

図3 「総合的な探究の時間」と進路の接続



※ウェブセミナーの投影資料を基に編集部にて再構成。



探究学習のねらいを 生徒と教師が共有する

探究学習と進路の接続を図るために、教師にも探究学習のねらいを丁寧に共有しています。VUCAの時代を生きる生徒に社会への関心を持たせ、課題の発見や設定を生徒自身が行うこと、そして探究のサイクルを回す中で、問題解決の手法をきちんと身につけさせること、その2点を強調しています。

生徒に意識させるのは 探究サイクル、進路、社会課題

ポスターセッションやスライドを使うプレゼンテーションの前に、生徒には必ず評価のルーブリックを提示する。そのねらいは、生徒に探究的手法と自校の教育目標を意識させることだ。1年次の前半の探究学習では、項目を絞り、分かりやすくかみ砕いたルーブリックを提示し、1年次の後半のグループ発表から2年次にかけては、より詳細なルーブリックを生徒に提示している。また、ポスターセッションやプレゼンテーション後には、生徒間での質疑応答や相互評価を行い、振り返りを深めている。特に、相互評価については、Google Forms（*2）を使うことで、事後の整理と共有が容易になったという。

同校では、探究のサイクルを回す度に、生徒は自分の探究学習を振り返り、「Classi」（*3）のポータルフォリオに蓄積していく。自分が何を考え、何ができるようになったのか、どうすればもっとよ

かったのか、次はどうしたいのかを言語化することで、次の探究のサイクルに生かすことができるからだ。また、キャリア・進路観の形成という点では、3年間の探究学習での振り返りの蓄積は、自分の変化を発見する力の醸成に、学習の成果と課題の言語化は、志望理由書を作成する力の育成につながるができる。

社会課題と進路をつなげる仕かけとして、2年次の夏季休業中に、「志望理由書の骨子」を作成させ、関心のある社会課題を踏まえて、卒業後に社会とどのように関わりたいのかを整理させている。さらに夏季休業明けにはアンケートも実施し、自分自身の興味・関心の変化や深まりを確認する機会をつくっている。その際には、希望進路も生徒に回答させることで、社会課題と進路とのつながりを意識させるようにしているという。

2年次の早い段階で、社会課題と進路について考えさせておくことで、3年次の志望理由書の作成にスムーズにつながるができる。また、2年次の後半から探究

する課題を考える機会にもなっているという。

ねらいを理解した上で、 3年間の探究学習に取り組み

2022年度、同校では多くの3年生が、国公立大学を始めとする学校推薦型・総合型選抜に挑戦している。篠原先生は出願指導の中で、成績や表彰歴といった結果だけではなく、その生徒が高校3年間で何をしてきたのか、その過程で何を考え、得たのかといった、学びのプロセスを明確に伝えることの重要性も痛感しているという。

また、生徒とは1年次の段階から「探究学習のねらい」を共有することが重要だと、篠原先生は強調する。VUCA（*4）の時代、未来の社会のあり方を見通し、そうした社会で必要とされる資質・能力を理解した上で高校3年間の探究学習に取り組めば、汎用的なスキルの獲得とキャリア・進路観の形成が促されるからだ（図3）。

*2 Google が提供するウェブ上でアンケート収集に使える「フォーム」を作成・利用するためのツール。
*3 株式会社ベネッセホールディングスとソフトバンク株式会社の合弁会社である Classi 株式会社が提供する、学校教育での ICT 活用を総合的に支援するサービス。
*4 Volatility（変動性）、Uncertainty（不確実性）、Complexity（複雑性）、Ambiguity（あいまい性）の頭文字を取った造語。

まとめ

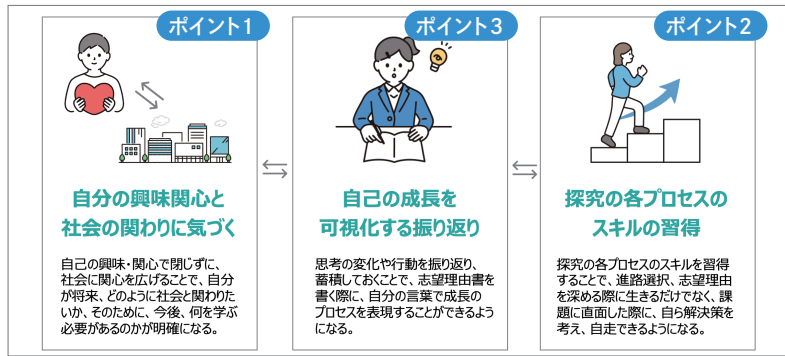
キャリア・進路観の形成と、進路を深めるための資質・能力の育成に向けて

探究学習と進路をつなぐ3つのポイント

「総合的な探究の時間」を通じて、志望理由の明確化に必要なキャリア・進路観の形成と、進路を深めるための資質・能力の育成を実現している宇都宮文星女子高校。探究の設計におけるポイントは、次の3点だ（図4）。

ポイント1 生徒のキャリア・進路観の形成にあたっては、自分の興味・関心と社会とのつながりやかわりに気づき、向き合わせるこゝとが重要だ。同校では、自分の興味・関心から探究をスタートし、徐々に自己から身の周りのことや社会へと視野を広げていくことで、自分の興味・関心が、将来や社会にどうつながるのか、今後何を学び、どのような手段で実現するのかを、生徒は理解することができる。

図4 生徒のキャリア・進路観の形成につながる授業設計のためのポイント整理



※ウェブセミナーの投影資料をそのまま掲載。

ポイント2 課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現という探究のサイクルを回す上で必要なスキルを習得することが、進

路を深める資質・能力の育成につながっている。同校では、「探究ナビ Basic」を活用し、3年間かけて探究のサイクルを繰り返し回す中で、各プロセスにおいて必要なスキルを習得している。そこで育まれた資質・能力が、進路選択や志望理由の明確化の際に生きている。もちろん、その資質・能力は、高校卒業後、様々な問題に直面した時に、その解決策を論理的に考える力にもつながるものだ。

ポイント3 生徒の成長を可視化する振り返りが確実に行われることで、生徒は、自分の思考の変化や行動を意識し、経験の中から何を考え、どう行動して今に至るのかといった学びのプロセスを、自分の言葉で言語化することができるようになる。

「総合的な探究の時間」の次年度の計画を検討する際には、宇都宮文星女子高校の3つのポイントも参考にしていきたい。

本セミナーでご紹介した、探究学習の実践に向けた中学校・高校向け探究学習補助教材「探究ナビ Basic」の詳細はこちらをご覧ください

https://bhsso.benesse.ne.jp/hs_online/info/tankyunavi/kyozai.html

『ハイスクールオンライン』トップページ > テスト&教材 > 探究ナビ Basic/ 探究ナビ > 教材について知る からアクセス

「学び続ける生徒の育成に向けて、新課程における教育実践と深化」

第6回テーマ 生徒のキャリア・進路観の形成につながる「総合的な探究の時間」とは

https://bhsso.benesse.ne.jp/hs_online/sidou/shinkatei/article/20221208_sougotekitankyutime/index.html

宇都宮文星女子高校のご講演を始めとする、全国の学校の実践事例を紹介しています。ぜひご覧ください。